

発電量 184 キロワット: キング・アブドラ金融地区 (サウジアラビア)

サウジアラビアの最先端の金融センター、キング・アブドラ金融地区 (KAJD) は、同国の石油資源への依存度を減らして、エネルギー必要量の一部を Conergy の太陽光発電技術を導入する計画を立てています。米国グリーンビルディング協会が表彰する、世界で最も重要な環境保護認証機関の 1 つである「LEED Gold」認証を達成できるように、5.07 および 5.08 地区の屋上に太陽光発電システムを設置することで、持続可能なアーキテクチャーを選択しました。

約 200 キロワットの発電量の太陽光発電所は、リヤドで最初かつ最大の屋上型の発電所となります。現地のパートナーである Modern Times Technical Systems (MTTS) 社と協力して、Conergy は、1,319 平方メートルの敷地に約 1.7 キロメートル分の Conergy SunTop III 架台と 800 枚を超える Conergy PowerPlus 230M 太陽電池モジュールを設置しました。金融センターの 1,500 台のコンピュータに供給可能となる、年間 330 メガワットアワーのクリーンなエネルギーを生産し、14 台のストリングパワーコンディショナーを経由して首都の送電網に電力を供給します。建物の完成時に太陽光発電所が送電網に接続されると、年間 180 トンの二酸化炭素排出が削減されることになります。

Conergy は、持続可能性に向けた新しい道筋に関して、中東の企業にサポートを提供しています。Conergy のアジアおよび中東担当社長の Alexander Lenz は次のように述べています。「KAJD は環境保護のパイオニアとなるでしょう。KAJD がこの役割を担うことは素晴らしいことです。この環境に配慮したアーキテクチャーを通じて、KAJD は、サウジアラビアの金融地区がどのようにして化石燃料への依存度を減らすことができるかを実証します。リヤドで最初の屋上型発電所によって、KAJD は手本を示すこととなり、同時に、中東における環境への配慮および取り組みを推進することになります。」

Conergy は、同国の太陽光発電の展開に長年貢献してきました。2010 年には、同社は、「ツワルのキング・アブドラ工科大学」(KAUST) の屋上に、2 メガワットの発電量を同国で最初の、そしてこの当時最大の太陽光発電所を建設しました。太陽光エネルギーを展開することにより、サウジアラビアは、輸出市場向けの石油およびガス資源の消費量を減らすという目標を追求しています。ペルシャ湾岸にある同国は、こうした資源に代わって、再生可能なエネルギーの生産に向けて自国のインフラを建設する計画を立てています。



プロジェクトの概要

日付	2012
場所	リヤド (サウジアラビア)
発電量	発電量 184 キロワットピーク
年間生産メガワットアワー	年間 330 メガワットアワー
太陽電池モジュール	810 枚 Conergy PowerPlus 230M 太陽電池モジュール
パワーコンディショナー	ストリング型パワーコンディショナー 14 台
架台	Conergy Suntop III 架台
発電所の規模	1,320 平方メートル
二酸化炭素削減量	180 トン/年



世界はエネルギーに満ちている